

## ハドルスペースで法人向けブラビアが求められる理由

働き方改革が進み、ビジネスでのコミュニケーションのあり方も変わってきた。

中でも注目されるのがハドル。ぱっと集まってさっと話し合い、またぱっと解散する短時間のミーティングだ。短い時間の中でどれだけ濃度の高い話し合いができるか、それをサポートするのが、設置する場所を選ばず、手間なくすぐに使えて、どこからも見やすいディスプレイだ。

### 明るい部屋でも、狭いスペースでも見やすい画面

働き方改革関連法が2019年4月から順次、施行されているのを受け、職場でのコミュニケーション方法が変わってきた。会議のあり方もその一つ。従来は、1時間単位で設定され、プレゼンターがプロジェクタで資料を投影しながらプレゼンテーションをし、ほかの多数の参加者がその内容を評価するといった具合に、会議室に集まるメンバーの役割は明確で、一対多のコミュニケーションが取られることが多かった。

一方で、新しいコミュニケーションのひとつとして注目されているのがハドルによる短時間の会議だ。短時間での情報共有を意味するこのコミュニケーションは、ぱっと集まって話し合い、その話し合った内容を即座に次の行動に反映することを目的に持たれる。事前にスケジュール調整をし、関係者を総動員して会議室で進める会議とは、対極に位置していると言えるだろう。



ソニーマーケティング株式会社  
ビジネスソリューション本部  
法人営業部 統括部長  
樺山 拓 氏

「もちろん、従来のようなスタイルの会議も、これからも残っていくでしょう。しかし、ビジネスに生産性、多様性、そして機動性を従来よりもさらに効率よく求められる今は、共創につながるハドルのような新しいコミュニケーションのスタイルと、それを可能にする環境が必要です」と、ソニーマーケティング株式会社 ビジネスソリューション本部法人営業部の樺山拓統括部長は語る。

スピード感のあるビジネスを求められる中でハドル会議をより活性化するには、視覚的情報を通しての意思疎通がポイントになる。

その際、どんなディスプレイでもハドルに適しているかいうと、そうではない。その理由は、ハドルスペースの特殊性にある。

「ハドルスペースは、会議室のように独立した空間ではなく、オフィスのオープンスペースの一角に設置されることが大半で、遮光は困難です。さらに、スペースの都合上、窓の前のようにオフィスの中でもひとときわ明るいところが指定されることもあります」

そうした明るい環境でも画面がはっきり見えるようにするには、十分に明るいディスプレイを選ばなくてはならない。

その点、ソニーの法人向け4Kディスプレイ『ブラビア』のFW-BZ35F/BZシリーズは、画面サイズが85V型から55V型までで620cd/平方メートル、49V型と43V型でも505cd/平方メートルと、十分な輝度を確保したラインナップを展開している。

ハドルスペースの大きさに合わせて、適切なディスプレイを選べるのだ。

さらに、ディスプレイと座る人の位置関係も考慮する必要がある。

「ハドルスペースではテーブルの奥にディスプレイを設置し、その両脇に人が座るケースがよくあります。その場合、人はディスプレイを正面から見るとは限らないのです。

ですから、視野角が十分に広がらないと、特にディスプレイのすぐ手前に座っている人からは、映像が見えにくくなってしまいます」

その点、『ブラビア』のFW-BZ35F/BZシリーズの視野角は、上下左右とも178度とワイドなので、ディスプレイのすぐ脇にいる人からも、しっかりと画面を見ることができる。

付け加えると、家庭用テレビのために開発された4K高画質プロセッサを搭載しているため、画質も十分だ。



液晶モニター 法人向けブラビア BZ35F/BZシリーズ



## 表示したい画面をリモコンレスで表示する

ディスプレイは使い勝手も、会議の進行状況を左右する。会議などの場で、スクリーンやディスプレイの調整に手間取ったり表示がうまくいかなかったりして、焦ったり手持ちぶさたになったりしたことがあるだろう。そのリカバリーにかかる時間がたった3分だったとしても、1時間の会議における3分と、15分ほどのハドル会議に占める3分とでは、比率が大きく異なる。ハドル会議では、ほんのちょっとした手間も惜まれるのだ。



ソニーマーケティング株式会社  
ビジネスソリューション本部  
ビジネス企画課  
牛丸 愛 氏

『ブラビア』のFW-BZ35F/BZシリーズの会議用ディスプレイパックは、スムーズなハドルの進行にも貢献する。「リモコンで画面を切り替えたり、ある人のパソコンにつながっていたHDMIケーブルをわざわざ抜いて別の人のパソコンに差したりという時間と手間が、必要ないからです」と、ソニーマーケティング株式会社 ビジネスソリューション本部ビジネス企画課の牛丸氏は語る。

『ブラビア』のFW-BZ35F/BZシリーズ会議用ディスプレイパックでは、画面切り替えのためのリモコンは操作は不要だ。HDMIケーブルが接続されれば、パソコンなどからの信号を検知し、自動的に電源が入り、画面を表示するようになっているからだ。さらに、複数のパソコンを接続する場合には、最後に信号を発したパソコンの画面が優先的に表示される。

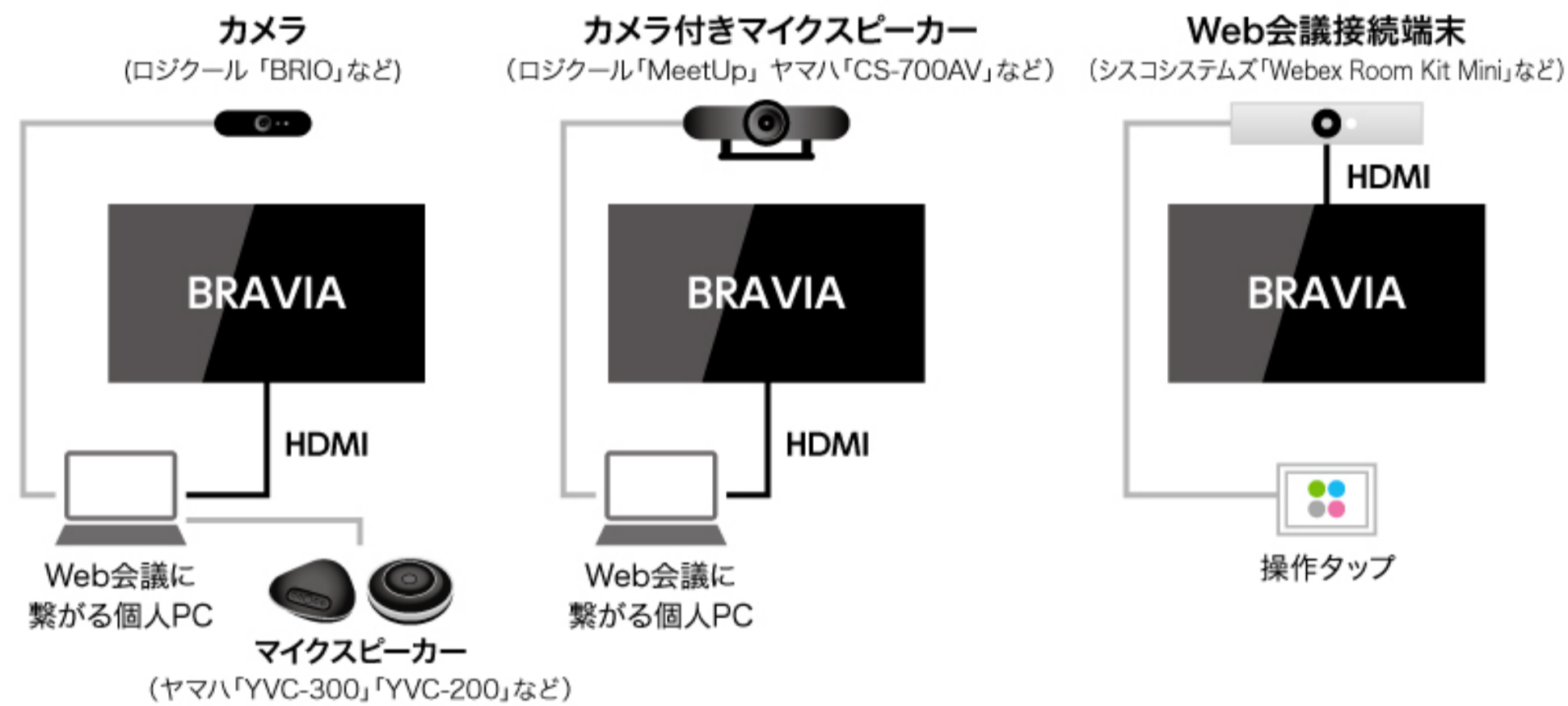
「切り替えや抜き差しは、ちょっとした操作ではあります。そのちょっとした操作を気にするのとそうでないのでは、コミュニケーションのための敷居の高さが異なります。また、リモコンには紛失や混同、電池切れなどがつきものですが、リモコン自体が不要となれば、管理者を手間取らせることもありません。私たちとしてはそうしたちょっとした操作、ちょっとした手間を感じることなく、ディスプレイをお使いいただきたいと思っています」

もうひとつ、『ブラビア』がハドル会議やWEB会議において評価されている点がある。特にWEB会議に言えることだが、通常はディスプレイの他にネットワークカメラやマイク/スピーカーなどを使用する。

しかし、ディスプレイによっては、独自機能により他メーカーの機器との組み合わせができないものやWeb会議専用機のケースがある。

『ブラビア』なら、シスコシステムズのWebex Room Kit Miniといった専用端末と連携しスムーズな利用ができます。

また、Zoom、Microsoft Teams、Googleハンガアウトなどの利用時にも、ロジクールやヤマハの機器をつないだPCを接続するだけで、スムーズに利用ができます。



ブラビアは、個人PCとHDMIケーブルで接続、または、Web会議端末用の操作タップがタップされると、連動して立ち上がり映像を映し出す。

ハドル会議に最適な『ブラビア』のFW-BZ35F/BZMシリーズは、画面サイズが55V型、49V型、43V型まで3種類。サイズについては「実機を持ち込んでのデモンストレーションやディスプレイの大きさを確認いただくための原寸大のツールを使用して実際にイメージしていただき、選定していただけます」という。

標準で3年間、オプションで5年間の長期保証が選べ、オンサイト修理にも対応する。

「2017年末から、ハドルスペースのためにとブラビアを選択してくださるお客様が増え、それが、継続のオーダーにもつながっています」と樺山氏。

性能も機能もハドルスペース向けのブラビアを、働き方改革を推進し、共創を加速するツールとして活用してはいかがでしょうか。

法人向けブラビアについて 詳しくは Webサイトへ ▶[sony.jp/bravia-biz/](https://sony.jp/bravia-biz/)

ソニーマーケティング株式会社

ご購入に関する相談は  
法人のお客様向け購入相談デスク

0120-30-1260

- 携帯電話・PHS/一部のIP電話など  
ご利用になれない場合がございます。
- 受付時間 9:00~18:00 (土・日・祝日 休み)

お問い合わせ